

★UAEと関係を深めるウズベキスタン＝アディティ・バドゥリ

アラブ首長国連邦（UAE）は、砂漠を繁栄と調和そして革新の逸話にみちた土地に変えました。一方ウズベキスタンは旧ソ連の影から取り戻した天然資源の山に座っています。

両国の関係は、ウズベキスタンのミルジィヤエフ大統領による最近のUAE訪問（2019年3月24日から26日）で示されたように、画期的といってもいいほどです。大統領はUAEのムハンマド・ビン・ザヤド・アール・ナヒヤーン皇太子、シェイク・サイフビン・ザイード・アール・ナヒヤーン副首相兼内相、ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム副大統領（ドバイ首長）と会談しましたが、どれも素晴らしいものでした。



UAEとウズベキスタンは、相互に大きな恩恵を受けており、二国間で信頼関係を深めることは当然のことです。

UAEは、良い統治、ビジネスのしやすさ、寛容さ、宗教的および民族的多様性、そして在留外国人の管理について世界の模範になることがたくさんあります。例えばドバイは、科学技術の最新の成果を体現しています。一方、ウズベキスタンは、豊富な天然ガス、ウラン、金の埋蔵量を誇る資源国であり、外界との関わりを切望しています。

ウズベキスタンはミルジィヤエフ大統領のリーダーシップの下で、大きかった旧ソ連の影を捨て、国の命運をかけて新しい路線を追求しています。それは国際社会での正当な立場を主張しながら世界を受け入れることを目指すものといっていでしょう。

両国は何世紀もの間、古い絆で結ばれてきました。そのため現在の絆を維持することに熱心ですが、その一方、より新しい分野で関係を拡大することを模索しています。その点で技術と人間の可能性の利用で大きな進歩を遂げたUAEや他の国家の経験は、ウズベキスタンにとって極めて重要です。ミルジィヤエフ

フ大統領が指摘したように、UAEは「短期間のうちに砂漠で奇跡を起こし、世界の経済、技術革新、貿易、金融、観光の中心地の1つになりました」。

両国の関係は近年、質的に新しいレベルにまで高まっています。8000億米ドルの政府運用資金を持つUAEは、（ウズベキスタンのように）財政難に苦しみ、二重に内陸化された中央アジアの国にとって貴重な経済的パートナーです。一方UAEは長い間、石油と西欧市場（依存の）経済を多様化しようとしてきました。

現在、UAEからの投資を受けて107の企業がウズベキスタンで活動しています。うち28社が駐在員事務所を置き、繊維製品、建築材料、缶詰の果物製造、印刷、卸売に携わっています。

両国間の貿易額は現在4億ドルですが、ミルジヤエフ大統領が指摘したように、その可能性ははるかに高いものでした。イスラム・カリモフ前大統領が2007年に訪問した時には、はるかに高い35億米ドル相当の取引を求めています。ミルジヤエフ大統領のUAE公式訪問は、これらの関係を拡大し次のステップに導くためでした。

両国間では、観光分野での協力が大きな可能性を秘めています。昨年、UAEからウズベキスタンへの観光客の数は1.5倍に増えました。ウズベキスタンには多くの観光名所がありますが、中東からの訪問者を引き付けるのは、世界中のイスラム教徒にとって重要な数多くの神殿です。最近ではウズベキスタン大統領令により、UAEの国民はビザなしで入国できるようになりました。これは観光の発展だけでなく、両国間の貿易経済、科学技術および文化の協力の一層の強化にも貢献するでしょう。

ウズベキスタンは他の分野でもUAEの貴重なパートナーとなる可能性を秘めています。それは高度に訓練され熟練した人材です。何百人ものウズベキスタン国民がUAEに住んでいて働いています。

両国とも現代のムスリム国として、宗教的穏健さと寛容さ、多様性の尊重、そして女性の権利の確保を十分に実証してきました。彼らはムスリム世界では、アフガニスタンなどのような国々にとって模範となる役割を果たしています。

ウズベキスタンはテロ対策に成功しており、宗教的過激主義に対抗する施策は他の国々の模範になっています。これまで国内のイスラム運動（IMU）やヒズ

ブテレ（Hizb-ur-Tehreer）のような反乱や過激派運動と闘ってきました。国内にはシリアのIS（イスラム国）に参加した市民が多数いて、彼らの脅威を非常に真剣に考えています。

それでも同国は、何世紀にもわたってイスラム教徒の学習の中心地として、宗教の調和と多様性を維持し、人々の宗教的信念や伝統のために健全な空間を残すことに成功しました。ウズベキスタンは、上海協力機構（SCO）の地域反テロ組織（RATS）を主催し、情報共有、テロ対策および地域平和における協力の重要なパートナーとなっています。

UAEも同じように、自国民とそこで働いている何百万もの外国人のモデル国として、宗教過激派と暴力的な過激主義との闘いに特別にとりこんでいます。特にこの地域の過激派は、現在の秩序の打倒をめざして現政権を（攻撃の）対象にしています。ですからこの地域では過激派に立ち向かうことは体制保護と同義であり、湾岸協力会議の国々はこの脅威を非常に深刻に受け止めています。

したがって両国は、この地域でのイスラム過激派と暴力的な過激主義との闘いで重要な役割を果たしています。両首脳は共同声明で、テロ、暴力的過激主義、違法移住、麻薬密売、多国籍組織犯罪その他の脅威および安全保障上の問題との闘いの決意を表明しました。

声明はまた、両国のパートナーシップをアフガニスタンの安定化における重要な要素としています。アフガンの安定と安全は両国がとりわけ重視して役割を果たしている課題です。

両国ともイスラム教世界に影響力を持っています。UAEは1990年代にタリバンの統治の正当性を支持した3カ国の1つでしたが、ごく最近では2018年12月に過激派グループを迎えて米国当局との交渉を促進しました。UAEはまた財政的援助を通じて、また財政支援を通じたパキスタンへの影響力によって、アフガニスタンの安定化にとって不可欠なパートナーとなっています。

さらに2017年にUAEの当局者がアフガニスタンで直接テロ攻撃を受け、UAE大使が命を落としました。このことは戦争で荒廃した国での安定を一層緊急の課題にしています。さらにUAEは、現代の繁栄している多民族国家として、タリバンのような反動政権を警戒しており、アフガニスタンで将来、タリバンを含むどんな政府ができたとしても、それを抑制する梃子を持っています。

アフガニスタンと国境を接するウズベキスタンは、IMUのような集団を生み出したアフガニスタン人ジハードの影響に苦しみました。多くのウズベク人が集団でISに加わり、ISがアフガニスタンに基地を造ることを警戒しています。そこからウズベキスタンの新兵がISに参加していくからです。

これらすべてを考慮すると、ウズベキスタンはアフガニスタンの難問解決に非常に積極的な役割を果たしてきたといえます。アフガン戦争とタリバン打倒の直後に米国とNATO軍の通過ルートとしての領土の使用を許可しただけでなく、近年ではさまざまな関係者間の和平交渉と調停を促進してきました。それは2018年3月のアフガニスタンに関するタシケント国際会議でも見られ、この会議にはUAEも参加しました。

最後に、両国は現代のイスラム教国として、宗教の穏やかさと寛容さ、多様性の尊重、そして女性の権利の確保の両方を十分に実証してきました。そしてイスラム世界でアフガニスタンや他の諸国の模範の役割を果たしています。それだけに両国のパートナーシップは、この地域にとって、また外部の地域にとって、一層価値のあるものになります。(了)

(IPP REVIEW 2019年4月16日)